

川柳忌（祖翁忌）

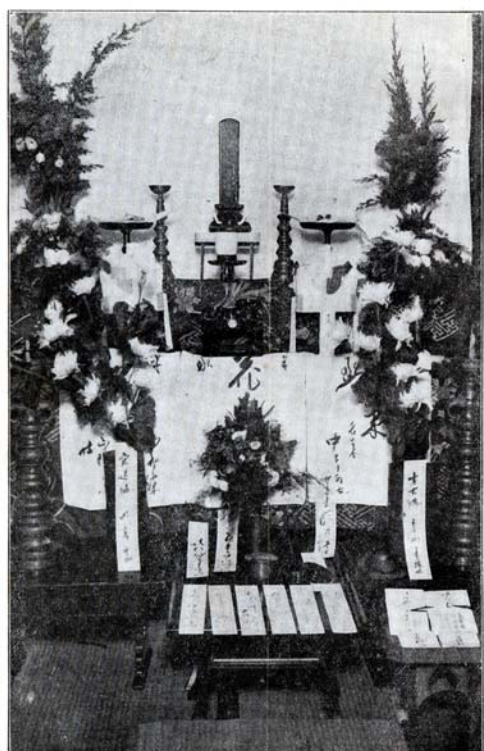
9月23日の川柳忌は、川柳という文芸名のもととなった初代川柳こと柄井八右衛門の命日です。寛政2年9月23日は、グレゴリオ暦の10月30日にあたり、「木枯や跡で芽をふけ川柳」の通り木枯しの季節にあたります。明治以降の柳風会では、10月20日を〈祖翁忌〉と呼び、追悼の行事と句会を行なっていました。

天保10年、五世川柳が50回忌に辞世句碑を建立、明治22年には八世川柳が100回忌記念標を建立、昭和14年には、十三世川柳が碑を建てています。

新川柳では、明治39年に久良岐社が初の川柳忌を行い、以降、9月23日に行事が行われてきました。平成元年に200回忌が行われ、今年は、221回忌にあたります。

①明治の川柳忌

久良岐社により行なわれました。



②大正7年の川柳忌

祭壇に位牌が置かれ短冊に認められた献句が並べられています。これも久良岐社の川柳忌の一場面です。